

地域レクリエーション協会による長期継続型指導者
養成機関の運営に関する考察 (第1報)
八王子レクリエーション学園における実践モデルの分析

○三本 勲夫 丸山 正 川津 鉄礼
(八王子レクリエーション学園)

指導者養成

1 研究の動機と目的

個人、集団、組織に対して創造的な活力を与える技能を持ち、個人、集団、組織の要求を調整して資源化する機能を持つような、地域におけるレクリエーションワーカーを養成する為には、どのような条件が必要であろうか。個人、集団、組織に対し例えば文化、スポーツ、野外活動などのレクリエーション財を伝達する能力を備え、地域に根ざした人間交流の演出が出来、レクリエーションを楽しむ集団や組織を育成することが出来るような、レクリエーションの理念をあらゆる対象に向けて伝達する力量を身につけたレクリエーションワーカーを養成したい。

従来から実施されている篤志形のレクリエーション指導者養成の条件では、市民の先頭に立ってレクリエーション運動を展開していくレクリエーションワーカーの育成には、内容も時間数や養成期間も大へん不足している。ボランティアでありながら高い専門性を備えたレクリエーションワーカーを市町村レクリエーション協会が養成する為には、どのようなシステムが効果的であろうか。運営の可能性を検討したい。

レクリエーション運動は、豊かな生活を求める市民運動であり、健康増進と文化生活の向上をはかる活動が展開されなければならない。*1) コミュニティレクリエーションワーカー *2) としての資質を備えたレクリエーションワーカーの養成方法を検討するのが本研究の目的である。

II 研究方法

長期連続形レクリエーション指導者養成機関として、地域協会が7年間にわたって運営している「八王子レクリエーション学園」の経営実践をモデルとして分析を行い、卒業生の活動状況を調査する。

III 指導者養成の実態

1. 八王子レクリエーション学園の沿革
- 1972年 八王子市レクリエーション協会設立。
- 1973年 三多摩レクリエーションスクール開催。
継続して各種指導者養成講座を開催。
- 1979年 八王子市レクリエーション協会青年リーダークラブの理論研修機関として、八王子レクリエーション学園(第一期)開設。クラブ員17名、クラブ員外受講者8名。
- 1981年 1カ年修業の新規定による第三期開講。
専攻科併設。
- 1985年 レクリエーション指導者養成II類制度に合せカリキュラム改訂。 研究科併設。

	本 科		専 攻 科		研究科
	入学者	卒業者	入学者	卒業者	入学者
79年度	16	—	—	—	—
80年度	49	—	—	—	—
81年度	66	19	1	1	—
82年度	44	27	4	3	—
83年度	43	30	14	12	—
84年度	24	13	17	13	—
85年度	19	—	6	—	7
合 計	261	89	42	29	7

表-1 入学者数と卒業者数

2. 指導者養成の目的

市民の多様なレクリエーション欲求に対応して、新しい時代の創造と、文化の香り高い街づくりを推進することを目指すレクリエーションワーカーに要請される資質は、次のようなものである。

(1) レクリエーションを「運動として」とらえることができる。

レクリエーションの価値を熟知し、信念を持ってレクリエーション観を市民に説得できるようにする。

(2) 人間交流の為に技術、集団を組織する技術を持つ。
地域に新たな人間関係を作り出し、レクリエーションを楽しむ機会を作り出す為の触媒となる。ゲーム、ソング、ダンス等の基礎的な指導技術はもちろんのこと、イベントを通して異質な人々の交流の場を作り、組織化の努力をする。

これらの資質を高め、既に現場で実践をしている指導者に対しては、理論、実技、両面での再研修の機会を与える。

3. 運営と方法

八王子市レクリエーション協会における、レクリエーション学園の位置づけは(図-1、2)のようである。

担当理事を中心に専門委員会が運営にあたり、将来は協会の経営から独立させることも検討しながら運営を行っている。

3・1 運営スタッフの育成

運営スタッフに望まれる要件は、(1) 地域に根ざすレクリエーション運動の視点を持つ (2) レクリエーションサービスの広い領域に渡って、基本的な知識、経験、技術を持つ (3) 教える態度より学生と共に学ぶ意欲を持つ。

スタッフの中から、レクリエーション研究、ゼミナールを担当する者を教授として位置づけている。

第5期(昭和58年度)八王子レクリエーション学園決算書

収入の部				
科目	予算額	決算額	増減	説明
1.雑収入	18,252	18,252	0	
2.学費収入	1,995,000	1,798,000	203,000	教材費、宿泊研修費62名×28,000
3.参加費収入	1,085,000	1,079,750	△5,250	
(1)修学旅行参加費	320,000	320,000	0	32名×10,000
(2)子ども学園参加費	600,000	588,000	△12,000	
(3)新年会参加費	60,000	73,750	13,750	
(4)メサート研修参加費	105,000	98,000	△7,000	学園生3000×14名一般3500×16名
4.受取利息	10,000	10,175	175	
5.雑収入	0	45,440	45,440	
6.別途設立金収入	900,000	900,000	0	
(1)贈品購入準備金	400,000	400,000	0	
(2)出版物準備金	500,000	500,000	0	
収入合計	2,798,252	3,041,617	243,365	

支出の部				
科目	予算額	決算額	増減	説明
1.会場費	96,000	76,600	△19,400	労務会館、野ビル
2.教材費	55,000	53,840	△1,160	テキスト代、カセット代、材料代
3.行事費	1,700,000	1,673,844	△26,156	
(1)修学旅行費	400,000	425,070	25,070	茨城県高萩市1泊2日
(2)子ども学園費	800,000	844,335	44,335	山梨県三倉村3泊4日
(3)学園祭費	50,000	82,231	32,231	慶南公園
(4)宿泊研修費	300,000	295,000	△5,000	八王子青年の家、サマランド
(5)新年会費	30,000	44,092	14,092	大和田中央会館
(6)メサート運営費	120,000	183,116	63,116	富士急ハイランド
4.印刷製本費	60,000	70,000	10,000	要項、卒業証書等印刷代
5.記録運営費	120,000	140,858	20,858	フィルム現像、文集等
6.通信費	15,000	18,190	3,190	切手代
7.事務用品費	20,000	27,604	7,604	
8.会費	10,000	5,250	△4,750	
9.贈品	100,000	35,000	△65,000	学園祭用はんてん、他
10.雑費	100,000	62,700	△37,300	
11.別途設立金	200,000	200,000	0	
(1)贈品購入準備金	80,000	80,000	0	
(2)出版物準備金	80,000	80,000	0	
(3)10周年事業準備金	40,000	40,000	0	レク学園創立10周年記念事業
12.予備費	7,252	0	△7,252	
13.雑収入	0	4,061	4,061	
支出合計	2,798,252	3,041,617	243,365	

昭和59年4月8日
以上の通り報告いたします。

八王子レクリエーション学園
庶務部長 吉田 誠司 印
監査の結果適正であったことを報告いたします。
運営委員 岸内 隆 印
市川 光男 印

表-2 八王子レクリエーション学園決算書

3・4 学園生

入学の条件は、18才以上で、現在、地域、職域、大学等でレクリエーション活動を実践している者、またはこれに参加しようとする者。
書類審査と面接を行ない、意欲と全期間に渡って出席できるかをチェックしている。
入学時の所属と平均年齢は(表-3)のようである。

4. カリキュラムと教育方法

地域を拠点として地域の問題解決をはかるトレーニングをする研修カリキュラムとしては、日本レクリエーション協会の2級指導者養成コースの時間規定(実技30時間、理論10時間)では不十分である。*3)
レクリエーション指導技術の研修が、表面的な伝達に終始しやすく、運動の理念や組織論をふまえた活動実践は困難である。レクリエーション財を体験的に身につけ、対人関係のしくみを学習し、人間交流の指導技術を習得し、地域の特課題を積極的に探究し、問題解決技法のトレーニング

職業 または 勤務先	1985 第7期		1984 第6期		1983 第5期	
	男	女	男	女	男	女
教員	2	2	4	3	5	6
加藤ハチロー講師						1
保母		2		1		3
学生	3	4	3	4	5	11
会社員	1	1	1	2	7	1
福祉関係	1	1	1	1		
老人ホーム						3
病院	1					
主婦		1				
レク団体職員						1
消防署						1
児童館			1			1
社会教育課			4			2
公民館						2
平均年齢	26	24	27	27	31	25
最高	38	37	42	47	65	52
最低	18	18	18	18	18	18

表-3 本科生の入学時の所属、年齢

ングをするには、2年程度の長期の研修が望ましい。
レクリエーションワーカーとして、地域に豊かなるおの生活創造していくためには、実践体験の積み重ねが大切であり、理論研修と実践体験をくり返し行う期間が必要である。

授業においては、調査、演習、実習、創作、発表、討論、研究、ゼミナール等体験学習形の展開が効果的であり、現場で活動している指導者の再研修の方法としても良い効果をあげている。

1984年度まで(表-4)のような学習カリキュラムで授業を行っていたが、1985年度より「レクリエーション指導者養成Ⅱ類制度」認定校となり、(表-5)のようにカリキュラムを改訂した。学習内容に関しては、従来の「Ⅰ類」制度による実践と比べて大きな変更はない。単位については、実技では30時間で1単位とし、理論では1単位15時間の他に自宅学習15時間を義務づけている。

テキストは、(財)日本レクリエーション協会「レクリエーション指導の基礎実技」、「レクリエーション指導の理論」、「月刊レクリエーション」を用いており、専攻科ではGWT研究会「グループワークトレーニング」、畠田碩哉「遊びの構造論」不昧堂出版を使用している。

本科、専攻科とも週1回2、5時間の授業を1年間継続する。必須の行事として次のプログラムが設定されている。

教育課程

科目	項目	本科 学習内容	時間	専攻科 学習内容	時間
基礎理論	レク 原 論	レクと生きがい	4	あそびと文化、レク概念の変遷	6
	レク 運動 論	意義と現状	2	主張と方向	4
実践理論	レク 指 導 論	レク指導の構造、指導者の役割	4	レク指導の機能、指導者育成	4
	プログラム 論	レク財の分析、企画と評価	6	イベントプランニングの技法	6
	組 織 論	レク協会の現状、クラブ作りの方法	4	指導者の組織化	4
	グループワーク 論	人間交流と社会的欲求、リーダーシップ論	4	グループワークトレーニング	8
応用理論	職 場 レク 論	心と体の健康づくり、労働とレク	※4 項目 選択		
	地 域 レク 論	地域レクの役割と課題			
	福 祉 レク 論	福祉とレク実践			
	学 校 レク 論	学校教育とレク、レク教育の方法			
基礎実技	遊 戯 ・ ゲ ー ム	導入、交流、自己表現の方法	8	指導案の研究、創作	8
	レク ソ ン グ	うたうよろこびの発展	6	指導の基本	8
	人間交流としての踊り	フォークダンス、レクダンス、民謡	6	集いを盛り上げる踊り	8
	集いの演出と運営	学園祭の企画	20	共感の発見、事例研究	10
応用実技	ス ポ ー ツ	健康の維持、スポーティゲーム	6		
	野 外 活 動	キャンプ、自然研究、オリエンテーリング	36	子ども学園の企画と運営	16
	表 現 活 動	スタンプ、奇術、創作活動	10		
研究協議	レク 研究 法	学級会活動、研究発表、ゼミ	26	ゼミナール、研究発表	32
特別実技	実技研修指導実習	学園祭、修学旅行、※レク教室	26以上	修学旅行、子ども学園、レク実習	42以上

※印は選択

172以上

156以上

表-4 1984年度 教育課程

教育課程

科目	項目	本科・学習内容	単位	専攻科・学習内容	単位	
レクリエーションの理論	基礎理論	レク 原 論	2	あそびと文化、レク概念の変遷	1	
	レク 運 動 論	意義と現状				主張と方向
	実践理論	レク 指 導 論		レク指導の構造、指導者の役割		
		プログラム 論		レク財の分析、企画と評価		
		組 織 論		レク協会と現状、クラブ作りの方法		
応用理論	グループワーク 論	人間交流と社会的欲求、リーダーシップ論	※	レクワーカー論	2	
	職 場 レク 論	心と体の健康づくり、労働とレク		プログラム論 イベントプランニングの技法		
	地 域 レク 論	地域レクの役割と課題		グループワークトレーニング		
	福 祉 レク 論	福祉とレク実践				
レクリエーションの実技	基礎実技	学 校 レク 論	学校教育とレク、レク教育の方法		2	
		遊 戯 ・ ゲ ー ム	導入、交流、自己表現の方法	指導案の研究、創作		
		レク ソ ン グ	うたうよろこびの発展	指導の基本		
	応用実技	人間交流としての踊り	フォークダンス、レクダンス、民謡	3	集いを盛り上げる踊り	3
		集いの演出と運営	学園祭の企画、学級運営			
ス ポ ー ツ	健康の維持、スポーティゲーム	2	ゲーム、ソング、ダンスの創作	3		
野 外 活 動	キャンプ、自然研究、ウォークラリー					
表 現 活 動	スタンプ、奇術、創作活動	2	修学旅行、子ども学園の運営	3		
実技研修指導実習	修学旅行、※レク教室					
研究協議	レク 研究 法	ゼミナール、研究発表	2	ゼミナール、研究発表	3	
合 計			9		11	

表-5 1985年度 教育課程

4・1 修学旅行

他県のレクリエーション運動、レクリエーション活動の状況、レクリエーション協会や関係団体の事業内容、指導者養成の実情、レクリエーション施設の見学等を実践活動家との交流の中から調査研究する。*4)

1985年度	千葉県千葉市、船橋市	1泊
1984年度	埼玉県上尾市	1泊
1983年度	茨城県高萩市	1泊
1982年度	新潟県新潟市、長岡市	2泊
1981年度	埼玉県秩父市	1泊

4・2 宿泊研修

都立青年の家等を会場として実技研修を3回行なう。ところゆくまで議論を深める機会であり、人間交流の実験体験を深める効果的な機会である。

他に宿泊を伴う研修は、次のような機会がある。修学旅行、子ども学園実習、キャンプ実習、学園祭、スポーツ実習(スケートまたはスキー)

4・3 キャンプ実習

市民のレクリエーション欲求として、自然観察や野外活動体験を求める声が高い。

野外活動への関心を高め、野外観察をはじめ野外生活技術を体験的に学ぶ。また、指導技術を演習する。

4・4 子ども学園実習

専攻科生は実際に小学生を対象としてイベント実習を行なう。

企画書、計画書の作成、目的の策定、検討、理念と実践の調和、運営組織、施設の改善、職務分析、役割遂行能力の評価法等を実践しながら学ぶ。1985年度は、専攻科生6名がディレクターを務め、本科生10名をカウンセラーとして、小学生3〜6年生101名(申込者160名)を対象として、8月に3泊4日のキャンプを実施した。*5)

5月〜7月末の間、プログラムの検討、下見、募集、準備打合せ会、説明会、デイキャンプ、文集作成、写真交換会の実施等、授業時間外にも自主的な研修や作業が継続する。この体験は、秋の授業に活用され、理論面でも実技面でも深まりを見せることにつながる。*6)

近い将来、子ども学園は「八王子レクリエーション学園・付属小学校」として、野外活動体験を主にして月1回以上の活動を実施することを検討している。

4・5 学園祭

八王子市では市民40万人のうち20万人が実際に会場へ足を運ぶという「いちょう祭」が11月に開催される。生活文化の創造を指向するレクリエーション学園としては、市民との、ところのふれあいを求め、よろこびの共有共感を願って主体的に参画している。

古くから住んでいる人びと、都心から縁を求めて移住してくる人びと、近年誘致した17大学の若者たち等市民の自由で平等な表現をいかに引き出すか、地域社会の存在を確認し、温かいぬくもりを求める住民のニーズを捕え、獨創性、意外性を演出して、参画のステージにのせ、感動源を発掘して自主的に自発的な祭のスタイルを企画する仕掛人として活動するのである。

イベントの下請けではなく企画集団として機能するとき仲間づくりから街づくりへの視点が明確になり、地域文化の創造への可能性が開けてくるのである。

客寄せや人気取りが目的のイベントではなく、地域のメディアを十分に調査研究して、コミュニティを指向したレクリエーションワーカーの姿勢を、地域の人びとに認めてもらうのである。

期待感づくりから評価まで、手にあまる苦勞の積み重ねとなるが、新鮮な感動を学生自身に植え付けてくれる体験が可能である。

同時に開催される大学演劇祭には、八王子レクリエーション学園演劇クラブも出演し、市民と創作のよろこびを共にしている。

4・6 ゲーム・ソング・ダンス創作発表会

基本的なレクリエーション財の分類や分析は、素材の機能を把握するトレーニングになり人間交流の媒介役として、レクリエーション財の適切な選択を可能にする。

想像力、創造力、創作力を高めるトレーニングとしてコンテストを実施している。作品は月刊レクリエーション誌等に投稿している。*7)

研究分野	本 科			専 攻 科		
	84	83	82	84	83	82
レク運動		1	1			
レク指導		1	2	1	2	
プログラム		2	2			
組織	2				1	
グループワーク	1	1		1		
職場レク	1	1	1		1	
地域レク		2			1	
福祉		1	4		1	
学校レク	1	2	1	2		1
ゲーム	2		2		1	
ソング		1		2		
ダンス		2	1	1		
集い						1
スポーツ		1		1		
野外活動		2			1	1
表現法		3	2	1		
健康		3				
教育	2	1				
レク管理		1				
レク資源			1			
演劇			1		1	
レクの生活化	2	1		1		
行動科学						1
測定評価			1			
指導者養成		1				

表-6 卒業研究の領域

*「レクリエーション」を「レク」と略した。

4・7 公開研究発表

現場の実践活動から生まれた問題意識を整理して、明らかにしたいテーマを選択する。スタッフとのゼミナールにおいて討論を重ね、観察や記録から因果関係を明らかにしたり、統計処理の技法等を学習していく。

論文は原稿用紙20枚程度にまとめ、発表要旨集を作成して、市民に対して公開の口頭発表会を開催している。*8)

レクリエーションとは何かを自分自身の言葉で考える機会であり、市民に対しては活動をアピールする機会である*9) 研究発表の領域は、(表-6)のようである。

4・8 自主活動

教育過程の他に、学生の自主的な研究・研修活動を奨励している。輪読会、フォークダンスクラブ、演劇クラブ、ビデオ研究会、グループワークトレーニング研究会等の活動が行われている。

5. 修了認定

(1) 本科、専攻科共、理論、実技、研究協議のそれぞれの科目について、出席率が80%以上であること。

(2) 実習に関して、報告書が提出されていること。

(3) 研究発表の評価が合格であること。

(4) 専攻科に対しては、卒業認定考査を実施する。基礎理論、実践理論、基礎実技について出題し、100点中60点以上を合格とする。実技については、1級検定試験と同様の内容と方法により、学内審査を行なう。

6. 卒業生の活動状況

長期連続型レクリエーション指導者養成講習会の現状*10)において提起されているように、講習会終了後は「意識の問題も含め、リーダーとして現実に活動しない」ことが問題点とされているが、八王子レクリエーション学園では卒業生の活動実践率は大へん高い。

卒業生は、複数の領域で活動実践している例が多いが、最も力を入れている活動を表示した。

IV 今後の課題

八王子レクリエーション学園の実践をふまえて、市町村レクリエーション協会において、コミュニティワーカーを目指す指導者の長期型養成が可能であることを示した。

(1) 卒業生の活動内容を調査・分析し、レクリエーションワーカーとして活動する為の問題点を検討したい。

(2) 地域のレクリエーション要求に合ったカリキュラムの工夫。

(3) 研究科コースのカリキュラムの検討。

(4) 本科、専攻科修了者の為のフォローアップの方法。これらの問題点を検討したい。

領域	活動内容	人数
地 域	レクリエーション指導者の養成	8
	地域文化の創造(児童館) *(公民館)	3
	都レクリエーション協会職員	2
	市レクリエーション協会の運営	4
	教育委員会でレクリエーションの普及	3
	地域サークルの運営	3
	ユースホステル職員	1
	カルチャーセンター講師	1
	フォークダンスサークルの運営	2
	インディアカサークルの運営	1
演劇プロデューサー	1	
職 域	職場レクリエーションリーダー	13
	消防少年団の指導	1
学 校	学校レクリエーションの振興	23
	幼稚園における創造的教育	4
福 祉	高齢者レクリエーションワーカー	8
	障害者レクリエーションワーカー 保育園での教育研究	4 11
その他	活動していない者	4

表-7 卒業生の活動状況

V 文 献

- 丸山 正: 月刊レクリエーション、1984年4月 p 21-25
- (財)日本レクリエーション協会: まちづくりとレクリエーション(コミュニティレクワーカーの手引き)、1980年
- 西野 仁: 専門的レク指導者の体系的養成カリキュラム、月刊レクリエーション1984年11月 p 14-19
- 八王子レクリエーション学園: 修学旅行報告書、1985年7月
- 八王子レクリエーション学園: 子ども学園報告書、1985年9月
- 八王子レクリエーション学園: 八王子子ども学園リーダーマニュアル、1985年8月
- 中田谷 日出夫: ソング 忘れられたグルミ、月刊レクリエーション1984年2月 p 46
- 八王子レクリエーション学園: 研究紀要、1984年3月
- 三本 勲夫: 研究発表、月刊レクリエーション1984年12月 p 60-61
- 長期連続型レク指導者養成講習会の実態: 月刊レクリエーション、1984年11月 p 20-22、1984年12月 p 32-36